

平成30年2月9日 (金) 19:00～20:00
八王子市保健所 別館

議事(1) 第2回会議の振り返り、構成員意見及び計画書への反映

論点：プロセス指標の許容値/目標値について

- ・国で定められている許容値は近々改定されるべき。平成20年からの8年分のデータは蓄積されており、現在公表されている許容値、目標すると、八王子市が特別に良いように見えるが、全国的に改善されているので、その旨の記載を入れるべきではないか。
- ・加筆、修正させていただく。

論点：ヘリコバクターピロリ菌について

- ・症状のない人に対する「除菌」の予防効果であることを明記すべき。
- ・科学的根拠は未確立ということの文言の言い回しを工夫するか、詳細な説明が必要ではないか。
- ・第2回会議を踏まえ、既に修正されている。

論点：子宮頸がん検診の対象年齢について

- ・子宮頸がん検診の対象年齢については、20代前半については過剰診断が多い。20歳からどんどん勧奨すると、不利益が大きくなること
- ・20代前半については、本計画ではクーポン券送付事業に併せ、飲酒、喫煙における健康影響の啓発として言及している。20歳のクーポン券送付は、国の施策として実施されており、補助金の対象となっている。

論点：子宮頸がん検診の精度管理等について

- ・子宮頸がん検診の精度管理上の成績が許容値に達してない部分があるのではないかと。また、どういう年齢の方が受けているのか観察し、方が毎年受ける必要があるのかどうか検討する必要がある。
- ・年齢に関係なく、2年に一度が推奨される中で毎年受診は、必ず不利益がある。
- ・精度管理上の数値については、上皮内がんを計上値に含まないよう報告様式が変更されたにも関わらず、許容値の設置が変わらなかったり、CIN3から報告すべきではないか等議論があったりする中で、八王子市としても対応を国に訴えている。
- ・子宮頸がんは要精検率の上昇等データのかく乱が起こっており、他のがん検診にはない問題がある。4がんについてのプロセス指標の位置子宮頸がんは分けて考える必要がある。
- ・検診の不利益の部分はしっかりと発信していく。

平成30年2月9日(金) 19:00～20:00
八王子市保健所 別館

議事(2) 意見募集(パブリックコメント)の結果及び市の考え方

論点：市の考え方の示し方について

- ・ 指針に基づいてやるというだけでは、国で決めた役所ベースの決め事に拘っているのではないか、という印象、誤解を与える。わかりやすく短い記述で、それは役に立たない、ということを書いた方が良い。例えば、有効性の確立したがん検診を実施しないと、がんのリスクは下がらない、指針というのは、みなさん一人ひとりのリスクを下げるのが証明された科学的根拠がある、だから、指針に基づく検診をやる、ということを入れた方が良い。
- ・ 修正し、公表させていただく。

議事(3) 八王子市がん対策推進計画(原案)

論点：用語解説

- ・ No.12 J-START 追加・訂正 : 超音波の併用によってマンモグラフィ検査で見つからないがんを発見できるメリットがあるか、がんでないのに精密検査が必要とされるデメリットが増えないか等の評価を行う。
- ・ No.13 PSA検査 追加 : 科学的根拠は認められていない
- ・ No.18 QOL 訂正 : 精神的な豊かさや満足度を含めた生活の質
- ・ No.27 がん診療拠点病院 追加 : がん診療連携拠点病院
- ・ 修正し、反映させていただく

論点：P59～ II がん予防の推進 3 生活習慣の改善

- ・ P.70 食塩摂取量は誰が推奨しているのか分からないので、出典を明確に記載したほうがよい。
- ・ 食塩摂取量の目安の事例は、少ないのであと何種類か載せたほうがよい。
- ・ P.69 アルコール量の目安は合っているのか確認を。
- ・ 確認し、必要に応じ修正させていただく

平成30年2月9日 (金) 19:00～20:00
八王子市保健所 別館

議事(6) その他

構成員から本策定検討会に参加しての感想

【坂本構成員】

- ・がん検診がどうあるべきか大変勉強になった。また、八王子市の精度管理が大変良いもので安心した。
- ・我々は市民の方と直接お話をする機会があるので、今回の策定検討会を踏まえて市民の方に正しく伝えることの重要性を認識した。
- ・活動をする中で市民の声も市へフィードバックしていきたい。

【河地構成員】

- ・八王子市のがん検診が大変レベルの高いものだ実感した。また、検診は緻密な議論中で育まれていることを勉強させてもらった。
- ・私は検診の実施、そしてがんの治療にも関わっているが、いろいろな立場でこれからも八王子市のがん診療に携わってきたい。

【西島構成員】

- ・臨床医という立場で、ここ何年も検診とはどうあるべきかを斎藤先生にご助言をいただきながら勉強させてもらった。
- ・八王子市民のため、八王子市の検診がより良い方向に向かっていくよう、少しでもお役に立てればと思っている。

【石塚構成員】

- ・医師会としても、個人としても検診を担う立場として、斎藤先生から検診のあるべき姿を伺いつつ、八王子市の状況を見て、他の自治体から視察が相次ぐことに納得しながら参加させてもらった。
- ・計画策定では大変良い議論ができたと思っており、今後は、この内容にしたがって医師会と市が協力・連携しながらがん対策を進めていきたい。

【斎藤構成員】

- ・がんセンターとして一自治体に支援、関わることは説明が必要だが、八王子市になぜ関与しているかということ、それはモデルを作ること。これは、新規性があるし、国の役にも立つし、研究にもなる。
- ・私は、従前の一番最初の会議で「日本一を目指してください」という話をした。もともと八王子市はベースがあるからできるという人がいるかもしれないが、日本一は並大抵なことではない。医師会の先生方の熱意と理念、がん検診は精度管理をできなければやるものではない、というスタンスが初回から感じられた。そういった中で精検受診率を指標にとると、もう一歩で間違いなく日本一だし、中核市規模では日本一なんだと思う。
- ・指針外の検診については、新たに予算措置をし、検査検証事業として実施をした。こういったことは八王子市と同規模の他の自治体のモデルとなってきたと思う。先程、多くの視察を受け入れているという話があったが、実際相当レベルの高い都市、県でもモデルになった事例を知っている。本当に八王子市の取組が役に立ち、住民に良いサービスを提供できる方向になってきた。
- ・最後のお願いは、日本一を圧倒的に達成してほしい。はっきりと日本一をうたえるまで、それがメディアを賑わし、他の自治体、都道府県が実際のモデルとして参考にするような事例が次々と出てくる、こうした状況を是非実現してほしい。これらも応援させていただく。